

8月11日の地震で崩落した寸又峡プロムナード
コーヌの現場。早急に復旧対策が施された

8月11日、午前5時7分
大地が震えた
眠っていた身体を激しい揺れが突き抜ける
家がミシミシと悲鳴を上げる
うす暗い部屋の中で気は動転、
何も考えられない自分がいた
不安と恐怖の中、布団の中でうずくまり、
揺れがおさまるのを、ひたすら
祈ることしかできなかった

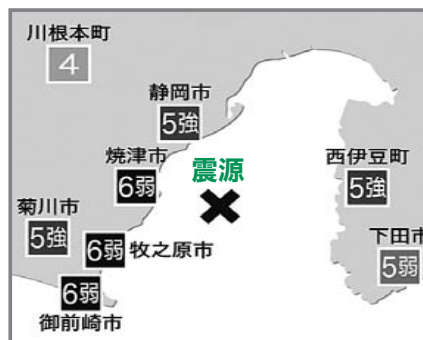
まちを襲った震度4

県沿岸部で被害多発
人的 県内では、静岡市で部屋に積まれた本などが崩れ、埋もれて窒息した人が唯一の犠牲者となった。焼津市や牧之原市では、骨折など重傷を負う被害も発生している。
ライフライン 水道に大きな被害が発生した。県内では5万7371戸が断水。牧之原市や掛川市のおよそ2万8500戸では、長時間にわたり断水が続いた。
建物 県内では半壊3棟、3

地震の概略
御前崎市の北東35キロメートル沖の駿河湾海底を震源とする8月11日に発生した地震。震源の深さは23キロ、地震の規模を表すマグニチュードは6.5、最大震度は6弱を記録し、沿岸部の御前崎港、焼津漁港には津波も到達した。
この地震で史上初めて、「東海地震観測情報（新基準で）」が発令。地震防災対策強化地域判定会委員打ち合せ会のメンバーが緊急招集された。検討した結果、「想定される東海地震に結びつくものではない」と結論づけ、報道機関に向けて発表された。

本町の被害は
県内で被害が多発したこの地震。本町は震度4を記録した。県道や町道などに数カ所、小規模な土砂崩落が発生したほか、寸又峡プロムナードコースでも法面が崩落し、一時通行不能となったが、早急に復旧工事が施された。

340棟が一部損壊した。しかし、最大震度6弱という大きな地震だったにもかかわらず、全壊した家屋はなかった。その理由としては、東海地震に備えた耐震対策「TOUKA1-0」を積極的に推進した成果が挙げられる。また県内の家具の固定化率が63%に達するなど、家屋の耐震対策が他県より進んでいることが、被害を最小限にとどめた要因ではとみられている。
交通 東名高速道路の相良牧之原インターと菊川インターの本線車道に5〜10秒の段差が発生したほか、牧之原サービスエリア付近では約40分に渡って道路が崩落。上り線の追越車線や下り線の路面全体に亀裂が生じた。この崩落は、地形や地震強度、大雨など複数の要因が重なって発生したものと見られている。



▲8月11日地震の震源および主に沿岸部の震度を抜粋したもの ▶地震の概要

震 央	静岡県 北緯34度47.1分 東経138度29.9分
震源の深さ	23km
規 模	マグニチュード6.5
最大震度	震度6弱：伊豆市、焼津市、 牧之原市、御前崎市
津 波	0.4メートル：御前崎港 0.3メートル：焼津漁港
死傷者数	死者1人 負傷者180人 (2009年8月18日午後4時現在)

幸い、人的・物的な大きな被害は発生せず、防災関係者は一様に胸をなで下ろした。しかし、安心してはいられない。今後、発生が懸念されている「東海地震」の規模は、8月11日の地震の180倍といわれている。そしてそのとき本町は、震度4をはるかに上回る「震度6弱」の揺れに襲われてしまうのだ。

残る つめめ跡

第1章

大自然の驚異は、いつもわたしたちのそばにある

東海地震を思わせた8月11日の激しい揺れ
10月、日本を縦断した台風18号の暴風雨
災害はいつも、大きな大きなつめ跡を残して去っていく
物的な被害はもとより、人々に「恐怖心」まで植え付けて
これら災害の教訓から学びとるために
防災を「忘災」にしないために
今年、本町を襲った2つの災害を振り返る

10月8日の台風18号の影響で、倒れてしまった広葉樹。根元から折れ、電線を巻き込んで道路をふさいだ（国道362号・瀬平）